

令和4年度第2回 北海道中山間地域等直接支払制度検討会（現地調査）
【意見交換会内容】

蘭越町

- (1) 日 時 令和4年10月17日（月）14:30～15:30
(2) 場 所 蘭越町役場2階会議室
(3) 出席者 検討会5名（岡田様、近藤様、志村様、丸山様、山梨様）
集落協定代表2名、町5名、道協議会2名、
後志振興局2名、農政部農村設計課5名

[開会及び出席者の紹介]（道）

[町勢及び農業概要の説明]（町）

[意見交換]（進行：山梨座長）

（検討会座長）

・蘭越町の皆様に時間をさいて頂きありがとうございます。中山間地域等直接支払制度の集落活動状況について伺わせて頂きたい。

（検討会）

・黄金集落協定になっているメンバーで、アイサポートニセコ、イシダハーベストはどういう法人組織か簡単に教えてほしい。広域化加算で昆布高台とも協定を結んで広域加算を受けているということで、どういう経緯で協定を結ぶきっかけとなったのか。集落機能強化加算は、第5期対策から新しく制度化になったと思うが、具体的な活動を見るとお年寄りの面倒を見ている、雪かきをやったり高齢者のことを気遣っている。このように使用している感想をお聞かせ願いたい。

（町）

・アイサポートニセコは、最近法人化した畑作農家。イシダハーベストは町内のセイコーマートを2軒経営をしている、水稻を大きくやっている法人。

（黄金集落代表）

・昆布高台は母親方の実家の場所で、昔からの繋がりのある農家であるが後継者がいない。そこで、自分がその農地を買って水田の基盤整備で大きくして、1軒ではできないから一緒にやらないかという話がきっかけで、地域を跨いでおり距離にして3km弱離れた場所だが、アイサポートもそこがもともと実家の地域。全部11町弱の水田を基盤整備して、90枚近い田んぼを基盤整備で8枚にした。共同取組でドローンを使って一緒にやっている。

（検討会）

・集落機能強化加算でお年寄りの面倒を見るというのは。

（黄金集落代表）

・今まで農家をやっていた方も高齢化で80歳代もおり、賃貸で近くの人に農地を借りてもらっている。豪雪地帯で屋根の上に1m50cmくらい雪が積もる。以前に倉庫を潰してしまった経緯もあり、せつかくの機会なので皆でやらないかと声をかけ、昔世話になったのでやりましょうという経過。昨年はD型倉庫で8mぐらい高さのものも行った。6～7名で

2連の梯子を持って行って、雪が落ちやすいように真ん中で切って、ジェットヒーターで暖めたら3時間ぐらいで雪が落ちた。その人は足が不自由で脚立で階段を上がることもできない。今年も時期を見ながらやっていきたい。

(検討会)

・制度ができる前からやっていたのか。

(黄金集落代表)

・その前までは本人がやっていた。雪の多いときも少ない時もあるが、その人は単身で一人住まい。窓のカーテンが2、3日開いてないなど、隣近所なので見守り隊という訳でもないが、単身で一人で住んでいる人が4軒あり、この加算を使いながら本人確認をやらせていただいている。

(検討会)

・補助金がきっかけとなっている感じはあるということ。

(黄金集落代表)

・そうですね、皆、はりきっている。何かあった時は大変なことになるからということをやっている。

(検討会)

・上里集落でもそのようなかたちで面倒をみているのか。

(上里集落代表)

・少ないですがやっている。

(検討会)

・補助金が加算ができる前からやっているのか。

(上里集落代表)

・1軒は前からやっていたが、他の人達はこの加算を機会に、年もとってきたのでやっている。

(検討会)

・集落のコミュニティをまとめていく、そういうかたちで機会があれば皆さんの面倒をみたり、何かやらないか声かけをしていくという感じか。

(黄金集落代表)

・地域ごとに神社があり年に1～2回集まってはいたが、だんだん出席率が少なくなり、同じ地域でも集まる機会がなくなり、こういう協定加算がきっかけとなり、昔からある地域を守ろうという意識が強くなり、地域も4代目ぐらいになるが、この集落がなかったら自分たちもいなかったという考え方でやらせていただいている。

(検討会)

・よくわかりました。ありがとうございます。

(町)

・実は、自分の母親も別の集落で一人暮らしをしている80代だが、冬は蘭越町は2mの雪が降りますので、冬にどうやって高齢者がその地域で暮らすか課題となっている。そういう中でこういう制度があって、地域の若い方が補助金を使ってやって頂くことで、地域が維持できる。非常に役立っていると思っている。

(検討会座長)

・今の関連質問で、先ほど見せてもらった農地は十分活用されていることがわかった。減反や放棄地は実際どこにあったのか。

(黄金集落代表)

・今段階で耕作放棄地はない。皆の協力を得て維持管理している。

(検討会座長)

・そのコツを伺いたい。皆さん共同してやっているのは見えるのだが。

(黄金集落代表)

・昔土地を開拓してくれた人の思いや後継者がおります。さらに隣近所の目も厳しい。役場の人も常に見回って監査してくれている。そんなに厳しくはないがやってもらっている。

(検討会座長)

・会社組織でサポートしている、イシダハーベストは個人じゃなくて会社ですよ。営農に関わっているという見方ができる。札幌の方が1名記載されているが、現地に住んでいる訳ではないのか。

(町)

・親の代がもともと蘭越で営農していた。息子さんが蘭越町と札幌を行き来しており、一緒に活動している。

(検討会座長)

・こちらに住んでる訳ではなくて通いの農業なのか。

(町)

・今現在は、本格的に農業をしているのではない、住所は札幌にある。蘭越にもいたり札幌にいたり時期によってという感じ。

(検討会座長)

・地元だけの人数だけで足りればいいが、いろんな人と共有というか、共同社会を作るしかないのかとも見えてくると、もし志のある人がいれば、所在地が違ってても参画するという、町や地元の見方はどうか。将来的にはどうか。

(町)

・集落によっては高齢化が進み、若い世代がいる集落もありますし、小さな集落では高齢化が進んでいる集落もないことはない。町で年に1回各集落のヒアリングの中でも考えなければならないと話している。高齢の70後半80の方が数人でやっているところもあるので、そういうところは広域化など考えていかないといけないとヒアリングの中では話をしている。

(検討会座長)

・そういう流れになるとすると、中山間の制度がうまく役立つ、うまく利用する機会は出てきそうか。どういったものが必要だというご意見はあるか。

(町)

・条件の悪いところは必ずあると思うので、そういう所は、中山間の該当地でもあるが、借りてくれて言う人も少なからずいると思う。そういうのがあるので営農の手助けになり、何とか借りてくれている。遊休農地がない、使われていない農地が出ないように今のところ頑張っている。

(検討会)

・今回の5期対策で広域化加算ができたのですが、黄金集落と昆布台集落が一緒になってやっているようだが、第5期対策からなのかその前からなのかをお聞きしたい。

(町)

・加算の対策が始まったのは第5期からです。

(検討会)

・もしかしたら突拍子もないかもしれないが、上里地区に行く途中に富岡地区と吉国地区があり、丘の上に田んぼが広がっていて、北海道は川の近くの平たいところに田んぼが広がっているイメージとしてあるが、丘に田んぼがたくさんあるのがすごくおもしろいと思った。なかなか水田地域で集落同士が一緒になるのは難しいイメージがある。どういう流れで違う集落が一緒にやることになったのか経緯があれば教えて頂きたい。

(黄金集落代表)

・昆布台集落の方はうちの除雪の運転手。親戚みたいな感じで昔からの横の繋がりがあり、地域は離れているが離すわけにもいかなし、冬は毎日顔を合わせる間柄で同じ農家やっているものですから、そういうような形でやっています。

(検討会)

・今日見た機械も集落を越えて使っているのでしょうか。

(黄金集落代表)

・そうです、特にドローンなんか、防除、除草剤はやっております。

(検討会)

・上里地区は隣の地区とどういう関係があるのかなと思ひまして聞きたいのですが、一緒に仕事しようとか他の対策を使って一緒にやっているとかそういう話はないか。

(上里集落代表)

・あまりない。上里地区と隣の地区は開拓の歴史や土地の条件もかなり違うから一緒にやっても。という感じ。

(検討会)

・それぞれの集落の物語が生かせる街づくりにこの対策が生かsetらいいなと感じた。その地域その地域の特性をこの対策で生かsetらいいなと思った。

(検討会)

・蘭越町はニセコとかも近いこともあつて全国区の知名度があると思う。全国から水田農家をやりたいという人が出てくるのではないか。この感じで町の維持・発展に向けて頑張っていけるのではと感じた。中山間のお金を使って高い機械を買って使い活用しているのを見てなるほどと思ったし、なんと言っても人同士のつながりがうまくいっていると感じた。若い世代って自分より上の人達が楽しそうに幸せそうにやっていると、自分達もああいう風になれると見てると思うので、お年寄りに親切な大人達を見てると安心する、心の安定に繋がると思い安心した。良い使い方をしているんだなと感じた。

(検討会)

・北海道の農業は課題が山積していると思っていたが、今日聞いているなかで非常にうまくいっている地区じゃないかと感じた。お昼に蘭越米のおにぎりを頂いたが、自分史上今年一番おいしいおにぎりでした。おいしいお米を生産されていると思った。専門知識が

ないので違う視点からですが、一生懸命取り組まれていると思うが蘭越米のブランドをもっと向上させる施策をいろいろ考えた方がいいのではないかと。せっかくだいいお水があり、いい環境でお米が作られていて、コンテストをやるという話もあったが、北海道だけでなく全国に蘭越米のブランドを知ってもらう施策を考えた方がいいのではと思った。ちなみに、先月大阪でやった大きいイベントの中で、別海町はブースを出していた。ふるさと納税をしてもらうためにブースを出しているんだけど、北海道にとらわれず、大阪などでブースを出す活動をしているというのも参考になるのではないかと思ってお話した。

今回の集落では、ドローンが使われていた。これから農家が少なくなるなか、効率をもっと求めていかななくてはならないと思うので、今、はやりの言葉で持続可能な農業を確立するために、ドローンだけでなくほ場監視カメラなども安くなっていると聞いている。そういうところにこの交付金を使っていくことも考えて頂ければと思う。

ふるさと納税や EC サイトなど全国で皆さんはネットで買い物するので、そちらへの誘導、農家さんではできないと思うので自治体で研究してそういうこともやられればいいのではと思った。

(検討会)

・北海道の農村社会のイメージと本州のイメージはある程度違うと私自身は思ったところがある。隣の人の目が気になるというか、集落の人と人の関係がかなり密になっているところがあって、集落がまとまりやすいこともあると思うが、他に蘭越町で19の協定が結ばれているということで、19個の集落協定の特徴として、集落の人達が自然にやろうぜとうことでこういう形になるのか、或いは役場の力がある意味では大きい感じもする。今後の展開を考える時に、どういうコミュニティの合意形成、政策に対応していくのかを考えた場合、集落内の一つ一つの関係について何か考えていることがあったらお願いしたい。農家さんから役場さんをお願いしたいことはあるか。歴史的に何か古い考え方はあるのか。

(町)

・初めて担当した時に19集落は多いとびっくりした。字地域毎に一つの集落があるイメージで分かれている。集落の中では人のつながりは強い。集落ごとの考え方は全く違う所はあると思う。広域化とは言ったが、簡単にいく地域と、一緒に間に入ってやらなければならない地域がある。総会を年に一度開いて、ヒアリングを一週間かけて一つのグループ、1~2時間かけてやるが、その時に悩みや広域化、高齢化に伴い農地をどうするか相談も受ける。問題は多いが、農業委員さんにも入ってもらい農地の次の担い手へどうするかなどそういう部分も含めて皆でサポートしながら中山間地域を見守っていくような感じでやっている。

(検討会)

・集落の人だけで話すよりも、役場のような施策がわかっている人が話し合いに応じてやっていくのがプラスになる部分があると思うがそのあたりはどうか。

(町)

・役場がというよりは、集落の役員をやっている方々がリーダーシップがあるので、役場も頼みやすい。忙しい中すぐ来ていただけるので、そういう連携は崩さないで信頼関係をもってやった方がいいと思っている。

(検討会)

- ・役場のコーディネーター的な役割はどうか。

(集落)

・大変助けられている。仲はいいと言っても、難しい考え方の人もいるので、制度をかみ砕いて話さないといけない人も中にはいるので、直接行って話をしてもらっている。変なトラブル、口を聞かないようなことに極力ならないような形でやっている。その辺は助けられている。

(検討会)

- ・第4期対策とだいぶ資料の様子が違う、違う様式になったのではないか。入力するソフトがあって簡単に作れたりするのか。農地の図面の作成など事務作業的にどうか。

(町)

- ・農地管理システム (GIS) から航空写真をプリントスクリーンして図面をエクセルシートに貼り付けて作成している。

(検討会座長)

- ・各集落の方からご意見などありましたらお願いします。

(黄金集落代表)

・まだまだわからないことがあり、先輩方に習わないといけないこともある。大学の先生の質問があると、気を引き締めてこれから頑張ろうという気になる。次回お会いする機会があればアドバイスなどありましたらこちらこそよろしくお願ひしたい。

(上里集落代表)

- ・そのとおりです。

(町)

・米のブランド化の話、米-1 (コメワン) グランプリ、農家の方が自ら役員になっていて10年続けている。それが各農家さんの力、お米を売る力になっていると思っている。今、物価高でお米の消費が伸びない。お米の方に価格を転嫁できない状況で、農家の収入が減る懸念もある。ブランド化に向けて高く売れるお米、おいしいとは言われているが必ずしも価格に反映していないので、そういう部分を課題としてとらえており、それに向けてどうしたらいいのかという検討を進めている。

(検討会)

・この補助金を活性化という形で利用できるような方向を探れないのかな。この補助金は川上で使っている性格が強いものだが。第5期から集落の機能を強化するということで、生活とかコミュニティの部分にちょっとシフトしているようなイメージがあって、ある意味ではコミュニティのような部分がないと乗り切れないぞ、というような政策当局の思いがあるのでは。中山間支援というよりもコミュニティ政策に持ってきている。制度を研究してブランドづくりもいいし何かできるのではないか。ニセコもあるし、環境もいいし山を見ただけで非常に景観も素晴らしい。地元でいろんなことにチャレンジしてほしい。今だとクラウドファンディングとかいろんなものがある。やれる余地はまだまだいろいろあるのかな、楽しみな地域だと思った。

(町)

・中山間はすごくお金が有効に使えるのものだが、ある農地を一人（個人）しか耕作者がしていない場合、個人に対しての支出となるものは認めないため、今後も農業者が減少している中で、その要件緩和等が必要と感じる。

(道)

・いろいろな条件がありますが、個別協定も作れますので、振興局にご相談いただきたい。一人だけだから制度が使えないということはない。

[閉会]